

第8回 緑化フェア幹事会 議事録
詳細摘録

令和7（2025）年2月5日

■次第と記録記載ページ

- 1 開 会
- 2 全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について【資料1】
- 3 実行委員会第6回総会について【資料2】
- 4 市制100周年記念事業の取組状況について【参考資料1】
- 5 閉 会

■日時と場所

日時：令和7年2月5日（水）9：15～11：15
場所：カルッツかわさき 大会議室1，2

■出席者

幹事（出席10名）			
	分野	氏名（敬称略）	所属
1	学識	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 教授
2	協働推進	栗原 国男	公益財団法人川崎市公園緑地協会嘱託 東京農業大学地域環境科学部地域創成学科 非常勤講師
3	出展展示	深町 貴子	園芸家：多摩区在住
4	交通対策	米川 僚一	一般社団法人 川崎市交通安全協会 専務理事
5	会場運営	渡辺 広之	京都芸術大学芸術教養センター 客員教授
6	行催事	反町 充宏	一般社団法人 川崎市商店街連合会 理事・青年部長
7	広報・PR	大西 絵満	かわさき市民放送株式会社 代表取締役
8	植物調達	矢澤 和洋	セレサ川崎農業協同組合 営農経済部組織支援課 課長代理
9	植物管理	今井 伸之	川崎市造園建設業協同組合 副理事長
10	飲食・物販	萩原 ひとみ	一般社団法人 川崎市観光協会 理事

公益財団法人都市緑化機構 上野企画調査部長
事務局（木村次長、小酒井部長、武久部長、岸課長、矢口課長、藤井課長、金井課長 他）

■配布資料

資料	1	全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について
資料	2	第6回実行委員会総会について
参考資料	1	市制100周年記念事業の取組状況について

■会議録

1. 開会

【事務局（木村次長）】

ただいまから第8回緑化フェア幹事会を開催させていただきます。

この間、皆様におかれましては、年末と年始の2回に分けてお集まりいただき、ウェブ等に参加をいただきまして、秋開催を振り返る時間を設けさせていただきました。その際は、お忙しい中、御参加いただきまして、ありがとうございました。改めて感謝申し上げます。

秋開催が終わりまして、既にはや2か月半となっております、もう春会期が始まる3月22日までは残すところ45日、1か月半というタイミングになってまいりました。この間、皆様からいただきました振り返り、あるいは御意見、アドバイス等を踏まえまして、現在準備を進めているところでございます。本日は、その取組状況について御報告をさせていただきます、改めて幹事の皆様から御意見等を頂戴できればと考えております。

本日の出席につきましては、幹事の皆様全員出席ということで、改めて御参加ありがとうございます。

事務局側のほうでございますけれども、緑化フェア推進室、シティプロモーション推進室市制100周年記念事業推進担当などの本市職員も同席しております。また、川崎市と共に緑化フェアの主催者でございます公益財団法人都市緑化機構様より上野企画調査部長にも御同席をいただいております。御紹介をさせていただきます。

本日、傍聴の方はいらっしゃらないという状況でございますけれども、こちらのほう、公開の会議ということでございますので、よろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、福岡幹事長から御挨拶をいただければと存じます。福岡幹事長、よろしく願いします。

【福岡幹事長】

皆様、おはようございます。本日は、春開催に向けて、秋開催の結果を振り返りながら、既に1回振り返りの会を設けてはおるんですけれども、春開催に向けてさらに気持ちを引き締めて、さらによいフェアになるように皆様の御意見を賜れればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【事務局（木村次長）】

ありがとうございます。それでは、時間も限られてございますので、早速議題のほうに入らせていただきたいと思います。と存じます。

議事を進めるに当たりまして、連絡事項を最初に申し上げたいと存じます。本日の報告内容につきましては、2月12日水曜日に予定しております市の定例のまちづくり委員会のほう、それから、後ほど御案内をさせていただきます、3月24日月曜日開催の今度は実行委員会のほうの第6回総会での報告内容となりますことを御承知おきください。また、当幹事会につきましては公開の取扱いとさせていただきます。本日の会議録に個々の発言者氏名を記載することをあらかじめ御了解ください。

次に、資料の確認をいたします。幹事の皆様、お手元にタブレットを置かせていただいております。そちらのほうで御確認をいただければと存じます。資料につきましては、次第に続きまして、資料1、全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について、資料2、実行委員会第6回総会について、参考資料1といたしまして、市制100周年記念事業の取組状況についてを配付させていただいております。

タブレットの不具合や資料の不備等ございましたら、会議の途中でも構いませんので、事務局までお申出いただければと思います。現時点で何かございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは、ここからの進行につきましては、福岡幹事長にお願いをしたいと思います。よろしく申し上げます。

【福岡幹事長】

まず最初に、タブレット不具合等は大丈夫ですか。資料は御覧いただけますか。大丈夫ですか。

それでは、次第2としまして、ここから私が進行のほうを務めさせていただきます。次第2、全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について、事務局より説明をお願いします。

2. 「全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について」について（資料1）

【事務局（岸課長）】

おはようございます。担当課長の岸と申します。よろしく申し上げます。資料のほうについて、20分弱ぐらいで少し御説明をさせていただければと思います。

おめくりいただきまして、資料2ページを御覧ください。まずは、全国都市緑化かわさきフェアを少し改めてというところがございますけれども、上段に書かせていただいた3つのキーワードにつきましては、各会場で今回テーマとして掲げている3つのキーワードになります。中段以降に基本実施計画の改めて基本方針を書かせていただいておりますけれども、この中の特に赤い字の部分につきましては、会場で、春、それから秋と2つの会期中の中でしっかり意識しなきゃいけないところということで、改めて少し抜き出しております。

下の部分、こういったフェアを通じての将来像ということで、みどりでつなげる、暮らしやすく住み続けたいまちというのを少し記載させていただいておりますけれども、次のページを見ていただきまして、こういった将来像に向けてやはり春をどうしていくかというところがございます。右側でございます将来像に向けてのいわゆるバックキャスト的なグラフをつけておりますが、こういうバックキャスト的な考え方をするとき、やはりポイントとなってくるのは、2つの変化点がどうベクトルを上げていくかというところになるかなと思っております。

秋につきましては、みんなで100周年を盛り上げる取組として、少し行動変化につながるきっかけについては、きっかけづくりはできたかなとは思っておりますけれども、まだまだこの将来像に向けてやらなければいけないこととして、2期の会期中で春という

ところに少し意識を向けますと、最終的に暮らしというところにいろいろなみどりの取組を波及させるというところがポイントであるかなと思っております。また、ベクトルを変えろという意味では、やはり今がターニングポイントになるというところをしっかりと意識して取組を進める必要があるんじゃないかなと考えております。

次のページを御覧ください。そういった意味で春の会期を少し意識して、今回改めてなんですけれども、春のテーマを設定しております。こちらにつきましては、やはり春会期は20日間しかございませんので、そういった意味で、先ほどの将来像に向けてというところを考えますと、その一歩目というところになるのかなと思っております。終わった後といたしますと、未来に向けての少し先というのをイメージする必要があるかなと思っておりますので、それぞれの会場がこの23日間の取組を通じてどういったところを目指すのかといったところを下の行で、生田については、やはり週末に今後も生田緑地に行ってみようというふうなところだったり、等々力につきましては、やはり等々力エリアのまちづくりにつなげたいというふうなところ、富士見公園につきましては、やはり未来の話をさせていただいておりますので、川崎の未来をどういうふうと考えていくかというところを少しストーリーとテーマとして一旦設定しております。

次のページからが秋の振り返りになります。秋の来場者数につきましては、こちら、エリアと会場と合せた合計の数字となっておりますけれども、全体で約94万人の来場者があったものというところがございます。課題といたしましては、少し下に書かせていただいておりますけれども、平日と休日でかなり差があったなというところが一つございますので、平日の集客につながる取組をやはり少し充実する必要があるかなというふうを考えております。また、来場者数の最終的な想定数なんですけれども、こちらは160万人というふうにご設定しております。あくまでも想定に来場者数でございますので、交通量とかいろいろなデータから算出したものではございますけれども、一方で川崎市民は155万人弱、今いるというところもございまして、市民の方1人に必ず1回は来ていただきたいというふうなメッセージも込めて160万人というところを設定しているところがございますので、そこにつきましては、そういった数字についても少し意識しながらやっていきたいなとは思っております。

次のページを御覧ください。こちらにつきましては、期間中あるいは少し11月末まで会場内あるいはウェブで取ったアンケート調査の結果でございます。来場された会場とか、それから、性別、年齢、お住まい等についてお聞きしたものでございます。結果が8ページの下段でございます。3会場とも40歳以下の割合が3割を占めるというところ、比較的若い世代の方に来場していただけたというところと、それから、3つの会場とも、会場の所在地からの区の来場者が非常に多かったというところがございます。こちらにつきましても、川崎市の市民の方に多く来ていただいたということと、ターゲットとして考えて若い世代の方が多く来ていただけたということは喜びであるのかなと思っている一方で、併せて課題としておりました、ほかの区からの来場というところだったり、他都市からの来場については、引き続きターゲットの設定も含めていろいろなことを考えていかないといけないのかなと思っております。

次のページを御覧ください。9ページでございます。こちらからが各会場ごとの振り返りを、少し写真を中心に並べたものでございます。富士見公園会場につきましては、公園

自体がリニューアルされた公園でございます。こちらに壁面緑化とか様々なもので最先端の緑化技術とか新しいみどりの価値を展示としては発信させていただいたところがございます。

次のページが、そのイベント関係というところがございます。メインガーデン中心に行ったパフォーマンスとか、芝生の広場で行ったグリーンカーペットの取組というようなところを写真で載せているところがございます。

次のページ、11ページでございますが、こちらは公式行事の少し振り返りでございます。10月19日にオープニングセレモニーと総合開会式を実施させていただきました。また、11月1日に佳子内親王殿下の御臨席を賜りまして、全国都市緑化祭を開催しているところがございます。

次のページを御覧ください。12ページでございます。等々力緑地につきましては、テーマにもございます、体験・体感というコンセプト（コンテンツ？）を多く織り交ぜた中で、ニューノーマルな屋外の過ごし方・楽しみ方を提案させていただいたところがございます。特に好評でしたのは、上段でございますACTIVE GARDENと、それから、ロングボーダーガーデン、ウォーターガーデンにつきましては、しっかりと主要のガーデンを皆様にご覧いただけたのかなと思っております。

次のページが等々力のイベントになります。等々力のイベントにつきましては、やはり楽しいといったところに少し着目した中で、いわゆるイベントというようなもやっております。左の上段でございますが、超芋まつりとか、ティラノサウルスの縫いぐるみを着ていただくような運動会、こういったものもやっておりますし、一方で、中段でございますけれども、みどりを楽しく感じてもらうということでツリーライミングとか、森のあそび場というようなところで少し子供たちにもみどりを感じていただくようなイベントを実施したところがございます。

次のページを御覧ください。生田緑地会場でございます。こちらにつきましては、やはり生田緑地の豊かな自然をテーマにしておりますので、そういった自然をしっかりと価値として感じていただくような取組を体験として実施しているところがございます。展示につきましては、上段、こちらが少し好評だったところがございますが、藍と霧のメタセコイアというところと、それから、右の下の写真2つございますけれども、薪の花ランドアートとか、地域の協働花壇といった地域の方が造っていただいたものを展示として、エリアと、少しエリアの外でございますけれども、飾っていただいたところがございます。

次のページを御覧ください。生田緑地会場のイベントにつきましては、やはり文化、歴史、芸術というようなところを全体の会場のテーマとしております。特に左の上でございますが、11月2日から4日までの3日間については、日本の伝統に触れる和びよりといったところを設定しております。また、右の上段でございますが、ワークショップとか体験会についても生田については非常に多く実施させていただいておりますので、こういったところでも子供たちも含めていろいろなものに親しむ体験を提供できたかなと考えております。それから、11月16日につきましては、岡本太郎美術館で夜のTARO Nightも実施させていただいたところがございます。

次のページを御覧ください。16ページでございます。こちらにつきましては、生田緑地の会場の一つというところで、今回、ばら苑の秋の特別展示をやらせていただきました。

非常に好評だったかなと思いますし、いろいろなバラを皆さん楽しんでいただけたんじゃないかと思っております。

次、17ページを御覧ください。秋開催の振り返りの中で市内各地の取組もやっております。こちらはまちなかみどりスポットという中で、市内のいろいろなところをこういったスポットとして設定させていただいております。これは直接緑化フェア推進室だけが関わったというよりは、市のいろいろな部署でやっていただいた取組でございます。左から、スポーツとみどりの掛け合わせでしたり、みどり×動物といったところで王禅寺ふるさと公園でバスケットボール教室とか、夢見ヶ崎動物公園の中で動物園の体験プログラムというようなところを実施したところがございます。今年度につきましては、こういった形で1年間を通じていろいろなところでみどり×〇〇というような取組を市内で展開してきたところがございます。

次、18ページを御覧ください。こちらが秋に関する協働の花づくり・花かざりの取組でございます。市内の小・中・特別支援学校にて、子供たちが小さな苗とかたねダンゴから花を作っていただいて、それを学校内外、それから、フェア会場、地域の公園などに花かざりとして実施させていただいたものでございます。こちらは引き続き春フェアも併せて市内の全170校で実施をする予定となっております。

次のページを御覧ください。19ページでございます。フェアボランティアの活動ということですが、こちらにつきましては、各コア会場にて、花壇の管理とか、来場者へのサービス、ボランティアセンターの運営補助という中で、秋開催につきましては延べ1,000人の方に御協力をいただいたところがございます。右の下には、そういったボランティアの方から、ありがとうの木というメッセージボードを作らせていただいて、この中で少しいろいろなボランティアさんの声をお聞かせいただいたところだったり、あるいはボランティアさん同士の意見交換も実施したところがございます。

次の20ページを御覧ください。秋の振り返りのうち、広報についてでございます。秋のパンフレットにつきましては4種類作っております。フェアの特に総合版につきましては意義とか理念、それから、次の100年に向けたメッセージを掲載させていただいております。また、中身につきましては、少し写真と、それから、AIの画像を使っていて、少しこちらについては伝えることを重視した中で、ちょっと文章を書いているところがございます。また、シティドレッシングにつきましては、主要駅周辺で、駅の周りとか、それから、市役所の街路とかでございますけれども、そういったものにフラッグの掲出とか、そういったものをさせていただいたところがございます。

次のページを御覧ください。公式ウェブサイトにつきましては、秋会期中のサイトの表示回数が25万人というところがございます。これは会期中の概要とかイベントの情報を主に発信したところがございます。また、SNS等につきましては、特に出演されていた方も含めてなんですけれども、多くの方にかわさきフェアを投稿りいただけたというところを考えております。下段には、PR動画を少し載せております。

次のページを御覧ください。こちらが秋から春にかけての取組の一つということで御紹介させていただき、育成期と呼ばせていただいておりますけれども、その取組を紹介させていただければと思います。ボランティアによる会場づくりにつきましては、富士見公園会場と、それから、等々力緑地会場におきまして、春会場の花壇の花の植え付けを12月

に実施したところでございます。

次のページを御覧ください。ボランティアの育成でございます。ボランティアの育成につきましては、フェアでの活動をきっかけに、仲間や地域の人たちの関係性とか、まちづくりへの参加の意欲をステップアップしていただきたいなと思っておりまして、こういった活動を通じて、市のまちづくり全体の活動にこういったボランティアがつながっていければいいかなというところを少し上の図で示しております。育成期の取組につきましては、2月に交流会を実施しておりまして、秋フェアに活動していただいた方々に、少し皆さんの中で交流を深める場を設定させていただいたというところでございます。

次のページを御覧ください。こちらからが、春会期の取組というところで、会場の様子だったり、展示の様子を御説明させていただきます。まず、富士見公園会場につきましては、引き続きになりますけれども、多様な魅力、強みを、みどりの魅力とともに発信していくというところと、やはり川崎の多様性というところがテーマの一つでございますので、そういった多様な主体と連携するということを持続的につなげていきたいというところをテーマとしております。資料でございます上段はメインガーデンでございますけれども、こちらは秋と比べると株数につきましては、秋の約3万株から春は6万株へ増やすということで、春らしい花を少し中心に、幸福の花畑という話をさせていただいておりますけれども、広場全体に広がった花畑を皆様に実感していただきたいなと思っております。

次のページを御覧ください。富士見公園会場のイベントでございます。特に秋からの変更点についてお話しさせていただきますと、夜につきましては、まず右側でございますけれども、毎週週末にナイトガーデンマーケットということで、こういったライトアップされた花と食を楽しむマルシェを開催させていただきたいというところと、併せて、毎週になりますけれども、先ほどのメインガーデンでいろいろなガーデンパフォーマンスをやらせていただきたいなと思っております。

次のページを御覧ください。富士見会場周辺のエリアの考え方でございます。駅と駅前でのお出迎えにつきましては、基本的には秋と変わらず、大型バルーンを設置させていただくというところと、それから、市役所通りにつきましては、少しエリアを縮小するということでございますが、市役所通りの歩道を活用してパークレットも設置させていただきたいというところ、それから、川崎駅も含めてですけれども、駅からの公共交通につきましては、小学生による路線バスのアナウンスを実施させていただきたいと考えております。

続きまして、27ページでございます。こちらは総合閉会式でございます。日時といたしましては、期間の最終日でございます4月13日に、今日もこちら来ていただいているカルツかわさきのホールのほうで行わせていただくという予定になっております。岐阜県への引継ぎと、それから、式典ということでいろいろなアトラクションを少しさせていただきたいなと思っております。これまでの川崎のみどりの取組を未来につなげるというところを少しテーマと考えております。

続きまして、28ページが等々力緑地会場の春の取組でございます。等々力につきましては、下でございますとおり、まずは本当にメインガーデンのACTIVE GARDENを新しく、少しいろいろな方に参加をしていただきたいというところも込みで、26団体で事前にオフサイドミーティングを実施しておりますので、造っていくだけではなくて、

20日間の運営にも携わっていただきたいなと思っております。また、正面限界のところにごございますパレットゲートにつきましては、少しリニューアルという形で地元あるいは若手のクリエイターにデザインのほうをお願いしているところがございます。いずれにいたしましても、春会期は春休みになりますので、子供たちが来ていただいて、自由に楽しんで遊んでいただくようなコンテンツを、等々力については特に楽しいというところをテーマと考えておりますので、そこにつながるようなものを様々やっていきたいなと思っております。

そういった意味で、次のページがイベントというところがございます。本当にこちら、写真で見ただけであれば分かる通り、毎週、ステージをやらせていただいたり、中段にごございますけれども、積み木、木育というようなところ、それから、出張動物園とか縁日というような、子供に楽しんでもらって、関心を持ってもらう、それから、フェア後もこういった場所でこういった取組を等々力についてはどんどんつなげていきたいなという思いもございますので、こういったものにつながる取組をやっていきたいなと思っております。

次のページを御覧ください。生田緑地でございます。生田緑地につきましては、先ほど一番最初のほうに御説明させていただいたストーリーの中にも書かせていただきましたけれども、やはり生田緑地に様々な方に来ていただきたいというところが一つ大きな目的でございます。そういった目的がございますので、ここに対しての愛着とか、生田緑地を好きになっていただくファン、あるいは何度も足を運んでいただくリピーター、あるいはこういった団体の活動と一緒に参加していただきたいというようなことを、この20日間の取組としてやっていきたいと思っておりますので、そういった仕掛けを展示、それから、イベントの中にも多く入れているところがございます。東口の竹のエントランスゲートにつきましては、春につきましては、秋の芸術といわゆる文化というようなコンセプトを少し継承しつつでございますけれども、緑地内で活動される方と一緒に竹の飾りつけを少しやっていきたいというところ。それから、右の下でございます、森の中のベンチ展につきましては、ランドアートの木を今度新たなベンチという形で作っていくというところと、周辺を草木染等で修景をさせていただくというようなところを考えております。

次のページを御覧ください。イベントにつきましては、生田緑地に関わっていただいた方からのアイデア等も活用した中でこういったイベントをつくっております。上段、中段にごございます熱気球の体験等につきましては、そういった方からのアイデアを基に、今回ちょっと新しい視点というところがございますけれども、上から生田緑地を見て、生田緑地のいろいろなものを実感していただきたいというようなところとか、それから、右の下でございますけれども、秋にも好評だったGreen TARO Nightにつきましては、4月12日に改めて実施させていただきたいというところ。それから、少し飛びましたけれども、左の下でございます、期間中、団体からいろいろなガイドとか体験会、それから、活動の展示みたいなものを通じて生田緑地の活動とかそういったものを皆さんに知っていただいて、一人でも多くの方にこういった活動に参加していただきたいというようなことを考えているところがございます。

次のページ、32ページを御覧ください。こちらにつきましては、春も引き続き地域との協働の中でエリアの活動を掲載しております。二ヶ領用水とか、それから、御幸公園と

いったところがございますけれども、ちょうど季節が桜の季節になりますので、できれば春の定番のイベントとか桜を意識したイベントとしっかり連携していけたらなと思っております。

次のページ、33ページを御覧ください。春の取組のうちの協働ということで2点ほど挙げております。左側が外国人観光客向けの広報というところで、1点意識しているのは少し、生田緑地になりますけれども、国の政府の観光局のホームページにも生田緑地は実は載っておりますので、外国人の方が多く来られております。こういった方に対して緑化フェアも少し便乗させていただきたいなというところと、右側がございますけれども、フェア会場の案内ガイドツアーということで、こちらは秋には富士見公園会場のほうで来場者に対してガイドツアーを実施しておりますが、こういったものを、ボランティアさんも含めてなんですけれども少し拡大するような形でガイドツアーを実施させていただければなと思っておりますし、左側につながるとうございまして、できれば、少し英語のできる方に外国人観光客向けのガイドツアーみたいなところも少し実施できたらなというところを考えております。

次のページを御覧ください。こちらは最終日のイベントということになります。緑化フェアのテーマの大きなところの一つでございますけれども、花とみどりを暮らしの中に取り入れていただきたいというところがございますが、こういったものにつきましては、秋にも実施させていただきましては、メインガーデンのお花を会期の終了後に皆様にプレゼントするというような企画を実施させていただこうと思っております。

次のページを御覧ください。35ページからが広報の取組になります。今月2月14日から広報集中期間というところで、駅周辺も含めて広報PRというところのシティドレッシングをやらせていただければと思います。ドレッシングにつきましては、見ていただいたとおり、少し桜の淡いピンク色をベースに、春を感じさせるというようなところをイメージしたものとなっております。

次の36ページを御覧ください。こちらは今回、会場のマップでございますけれども、これを作るというところで、少し親近感とか分かりやすさを重視した中で、秋に作らせていただいたパンフレットとは別に、写真ではなくイラストを重視して作っていくというところと、情報量についても少し厳選させていただく中で、コンテンツの推しを分かりやすくしたいなと思っております。また、形状につきましては、現場で持ち歩いていただきたいなと思っておりますので、一覧性が高い、じゃばら形のものというところで携帯しやすいものというところを考えております。最後に、こちらなんですけれども、やはり事前の周知というところも大変重要なことと思っておりますので、特に市民の皆様にご覧いただくように、会期の前までに市内には全戸配布をさせていただく予定となっております。

次、37ページを御覧ください。交通輸送の取組のうち、生田緑地会場のところを特に御説明いたします。駅からの移動という中で、次の38ページを見ていただきたいと思っておりますが、生田緑地会場の入り口から向ヶ丘遊園までのシャトルバスについては、秋の片道から往復、左右の往復というところに変えさせていただくというところと、秋に会場周辺で行っていたグリーンスローモビリティにつきましては、駅までの交通をやめて、緑地内だけで循環するような形で少し増発をさせていただきたいと思っております。

最後、39ページでございます。こちら、春会期の植物調達につきまして、引き続き生育の状況の確認を進めるなど、円滑な調達の手続を実施しております。今の予定でございますが、春につきましては全体で22万株を予定しているところで、種類数と品目につきましては、下に代表的な事例を挙げておりますので、御覧いただければなと思っております。

資料でございますけれども、以上でございます。雑駁な説明でございましたけれども、ありがとうございます。

【福岡幹事長】

岸課長、御説明ありがとうございます。内容が非常に多岐にわたっておりますけれども、ここからは時間が十分ございますので、幹事の皆様から御意見をいただきたいと思っております。御意見のある方は挙手をお願いします。いかがでしょうか。

それでは、栗原委員、お願いします。

【栗原副幹事長】

どうもありがとうございます。何かすごいボリュームでなかなか頭に入り切らないんですけれども、でも、すばらしい秋開催だったなというふうに改めて思っています。

それで、前日から資料を送っていただいたので少し見させていただいて、基本方針ってたしか2ページ目にあったかと思うんですけれども、結構これは物すごく大事になってくるのかなというふうに思いました。ちょっと気になったのは、当初のテーマ、Green For All! というのがなくなっちゃったので、多分秋開催をして、さらにそれが膨れてこういう形に具体的な将来へ向けてのテーマに変わってきたのかなと思うんですけれども、何か今までGreen For All! というのが川崎の緑化フェアのテーマだよと言ってきた立場としては、何かどこかにそれを入れておいてほしくて、最終的にはそこにたどり着くんだというようなことも入れておくといいのかなというのがちょっと気になった点でありました。

それで、この中でやはり、次にどうつなげていくのかというのがすごく大事なことになってきて、この間も福岡先生がおっしゃっていましたが、やっぱり鉄は熱いうちに打てじゃないですけれども、終わっちゃってから何かやろうとしても多分なかなかエネルギーが湧いてこないというので、もう春開催のやっている中から、ここにも書いてありますけれども、次のきっかけづくりとか仕掛けづくりみたいなものやっていく必要があるのかなと思います。

グリーンインフラが持つ多様な機能とかというものがこれからのまちづくりの中でのみどりとしてはすごく大事になってくると思うんですけれども、今回の展示でもいろいろな先進的な壁面緑化とかグリーンインフラの庭園とかいろいろなものがあつたんですけれども、それ以外にもまだまだたくさんいろいろな技術は多分ある。専門は福岡先生が専門なんですけれども、もう少しまだまだあるので、そういったものも少しグリーンインフラの新たな緑化技術ということで提案できるといいなというふうな点。

それからもう一つは、実際に、じゃ、それを市民がこのフェアが終わった後に自分たちでどういうふうに関わっていけるのかというのを何かきっかけとして挙げておいて

もいいのかなというふうに思いました。例えばグリーンインフラの一つの考え方としては、落ち葉を集めてそれからたい肥を作るというのもできることだと思うんですけども、そういった市民が何か自分たちでできること、例えば落ち葉だめを造るというのを地面の中に掘り込んで造ったりとか、公園とかそういうところで造ることによって、その落ち葉がたい肥化して土に循環されていい土になって、それが植物の生育にもつながっていくし、土壌生物の活性化にもつながっていくというような形でつながっていくということができる。あるいは、それが逆に言えば、土の中にそういったものを造ることによって、都市の雨水貯留みたいなものにもつながるということで、いろいろなものにつながっていくんだよということが何か、じゃ、こういうことだったら私たちもできるかもしれないというものが何かあるといいのかなと思いました。

それとあと、この中でもウェルビーイングなライフスタイルという中であって、そういったみどりに関わるのが、今いろいろなところでみどりって健康というのが話題になっているかなと思います。WHOとかでもいろいろなレポートなんかが出ていますけれども、そういった健康づくりにもつながるといようなことを、ライフスタイルというのがありますので、そういったものにつなげていけるというような形で、ただみどりを増やすことがすごくまちづくりとして大事なんだけど、それは人間にとってもすごく大事なことなんだというように何かうまく表現できるといいかなと思いました。

それとあと、23ページに書かれていました、フェア後のまちづくりといいますか、こういった取組みたいなもので交流会というのが提案されていて、これはすごくすばらしいことだなと思います。実際、秋をやってみてどうだったのか。これ、春に向けて具体的にどういうことをやっていきますよという中で、じゃあ、その後どんなことができるか。もう1回ぐらい交流会があるのかどうか分からないんですけども、最終的に、じゃ、自分たちがどういう形でまちづくりとかみどりに関わっていくのかというものを、やった方たちの、市民も含めてですけども、どういうふうに次を考えたいのかなというのをちょっと聞きたいなという部分もあります。

それによって、多分戦略的にいろいろなまちづくりとかを考えていくと思うんですけども、僕個人としては、やはりボランティアさんが最終的には自分たちの地域に帰っていくというふうに思っています。ですので、地域単位で既にいろいろなプログラムも考えられているとは思いますが、区とかが中心となって市民のボランティアさん、あるいは学校であるとか、いろいろな公共関係と連携しながら、地域のまちづくりを考えていく。それが7区がつながって川崎市のまちづくりの発展につながるような、何かそんなようなきっかけづくりが、もう春の開催の時期から次はこんなこともできるんだ、やるんだよ、こんなことができるかもねみたいなものが何となく分かっていくと、気持ちが、モチベーションが下がらないで次に行けるのかなと思っています。

最終的には市民の方々がやっぱりこのフェアを通して自律したまちづくりをつくっていくというのが理想だと思うんですけども、そのきっかけづくりになっていくのかなと思います。多分そのきっかけづくりというのはいろいろ自分たちのまちを見直すワークショップであったり、まち歩きであったり、いろいろなことがあるかと思うんですけども、何かそんなことで将来的にはプチ緑化フェアがそれぞれの地域でできるような、何かそんなようなものにつながっていくといいのかなと感じました。

【福岡幹事長】

栗原委員、ありがとうございました。どうでしょう。川崎市さんのほうからもしコメントがあれば、お願いします。

【事務局（岸課長）】

何点から私のほうから答えさせていただいて、多分、協働のほうはほかの担当課長のほうから答えさせていただければと思います。

まず1点目のGreen For All! KAWASAKIにつきましては、すみません、そうですね、ある意味、少し当たり前といったところもあって、この資料には載せていないんですけれども、川崎市としては、Green For All! KAWASAKIというところのキーワードについてはとても大事だとキーワードだと思いますので、資料のほうもそうですけれども、今後もこの名前を多分使っていくところがいろいろなところで出てくると思っておりますので、そういった中でも引き継いでいくものかなと思っております。

それから、ウェルビーイングに関しましては、少しこの20日間の中でどこまで提案できるかなというところは一つあるんですけれども、いろいろな場面で少し暮らしの中に取り入れていきたい、緑を取り入れていただきたいというところを、今回の20日間の中の少しサブテーマの中には入れておまして、いろいろな中で花配りだったり、そういった、こういった形で生活の中に取り入れられるのかというのは、提案を様々な場面でしていきたいなと思っております。

また、この先の展開というところについても、やはり緑化フェアのレガシーといったところは、来年度7年度は当然川崎市のいろいろな総合計画も含めて政策を変えていく年になりますので、その中にこのウェルビーイングという考え方については恐らく次の主軸の考え方の一つになっていくんじゃないかなと思っておりますので、その中でも様々な施策の中でこういったものを取り入れていく活動になるのかなと思っております。

また少し、プチ緑化フェアというところについても、こういった形でやるかは別なんですけれども、レガシーの一つとして、他都市さんもそうなんですけれども、いろいろな中で緑化フェアでやったものをどう生かすかという取組の一つとしては、そういったものを検討している自治体もございます。川崎市につきましても、少し未来の話になるかもしれませんが、引き続きこういった取組が定期的に皆さんの、ハレの日じゃないんですけれども、発表の場になるようなところを考えていきたいなと思っております。

【事務局（矢口課長）】

続きまして、先ほど委員のほうからいただきました、フェア後のボランティアの取組、交流会を行うという点でございます。こちら、ボランティアの交流会のほうですが、来週2回実施する予定がございまして、両日合わせまして100名以上の御参加をいただける予定となっております。こちらでは、まず秋の振り返りを、皆様御自身が取っていただいた記録をこちらで編集いたしまして、振り返りをしながら、春はどんなことができるかなということを皆さんでお話をさせていただいて、仲間づくりというのもとても大事だと

思っております。これから何かを一緒に行動していく仲間同士になれたらということの狙いもございますので、皆様が各テーブルでお話合いができるような形を設けていきたいと思っております。

また、その後、市内には様々なみどりの活動、皆様が活躍できる場所がありますということが多面的に事業を紹介していこうと思っておりますし、また、みどりによらず、市内の活動も様々ございますよという入り口を皆様にお示ししていきたいと思っております。今回はこのようなところの入り口をお示しして、活動のきっかけになればと思っておりますが、また次年度以降、そういった新しくボランティアをやってみたいといった人たちに、こういった入り口がありますよということをどんどんお示ししていきたいと考えているところでございます。

もう一つ、先ほどプチ緑化フェアというキーワードをいただきました。今回の報告には少し載っていない部分ではあるんですけども、今、今回100周年をきっかけに集まりました団体・企業さんの取組でみどりの共創プロジェクトというのがございます。こちらのほうが現在9団体で、自ら自分たちで今後自走化して、市内の各所でみどりの取組をしてコミュニティーを広げていきたいと思いますということで活動が始まっております。その皆さんが今度、春の会期中にも少しいベントを行いますので、こういった皆さん、またワークショップなど出る場も民間の取組の中でもありますよということも今回紹介していく。そういったものが小さな緑化の取組につながればと思っているところでございます。

以上でございます。

【福岡幹事長】

ありがとうございました。それでは、そのほか御意見ございましたら、挙手のほうお願いいたします。では、深町委員。

【深町幹事】

おはようございます。深町と申します。よろしく申し上げます。たくさん皆さんもおっしゃりたいこともあると思うので、短くお話しさせていただきます。

今回この緑化フェアに関わらせていただいて、春と秋、2期にわたった、間に冬もある。それがどうなんだろうと、気持ち的にも、あるいは物的にも、いろいろな準備についても2回関わるわけだからってすごく不安に思ったこともあったんです。でも、こうして秋開催をやって、今こうして振り返りができて、こんなことがあったよね、こんなことがあったよね、あ、ちょっと話、あれもあったねと。でも、それが振り返ることができて、次の春に改良してまたバージョンアップしてできるというのはすごいことだな、とてもすばらしいことだなと今すごく痛感しているというか、思っています。特に今、冬でとても寒いですが、春というと、これから暖かくなって、みんなの気持ちも上向きになっていく。そこに向けてこの緑化フェアの春開催があるというのは、気持ちの上でも、それから、お花の上でも、季節の上でも、温度の上でもとても温まってくるので、このまま一緒に、市民の皆さんと一緒に大きく羽ばたいていって、さらには未来に向かう、明るい未来に向かうというイメージと重なるので、この春開催をととてもよい方向に持っていけたらと思います。

一番最初にこの振り返りの御報告書の中で一つ思ったことがあります。それは平日と休日の来場者数にすごく差があるという点です。私は生田緑地のすぐそばに住んでいる者なんですけれども、本当に富士見も等々力も生田も週末はいろいろなイベント満載で、どこに行ったらいいだろうと目移りするほど楽しい。でも、平日に行くと、びしゃっと通常どおりの公園なんですね。行くと、誰もいないとは言わないけれども、普通に、いつもどおり。緑化フェアが開催されているかどうか分からないという感じなんです。

それを満遍なくというのはすごく難しいと思うんですけど、でも、例えば私は生田地区に住んでいるんですけど、ここの場所というのはすごく高齢者が多い地域なんです。等々力だとか富士見だとかという、アクティビティーがあって、若い子たち、それから、お子さんだとか若い世代、まさに狙いどおりに40代、30代の人たちがいらしゃったかもしれない。でも、我々年配者にとってはちょっと疲れてしまって、できれば静かに何かゆっくり緑化フェアを楽しみたい、そういうイベントがあればいいな、あるいはそんなコーナーがあればなとすごく思ったことがあります。

ですので、そういったものを例えば平日に持ってきて、少し年齢がいくつくと何が不安になるかなといったら、健康とか何かそういったものを中心に、みどりを通じて、あるいは外に出ることによって、光を浴びることによってこれだけ体が健康になるだとか、あるいはみどりや花を通じて人と集う場所が出来る、人と接する場所が出来る、そういったものをアピールするような何か取組を平日になさると、またさらにやんわりと盛り上がるかなと思います。そして、この緑化フェアを通じて花やみどりが暮らしの中に本当に溶け込むことによって、それが緑化フェアが終わってもその温まった気持ちをおうちに持って帰って、あるいは学校に持って帰って、施設に持って帰って、ずっと継続できるようにしていただけると、この緑化フェアがさらにいいものになっていくかなと思いました。

以上です。

【福岡幹事長】

それでは、川崎市さんのほうからお願いします。

【事務局（岸課長）】

深町委員、ありがとうございます。平日の仕立てというところでございます。現在、やはり平日は、今回は春休みが重なるということもありまして、お子様方がかなり多く来るのではないかと考えているところがございまして、そのお子さん方が楽しんでいただけるような、例えば等々力の会場であれば、平日の期間も含めまして、動物が来るようなイベントがあったりとか、あるいは全ての会場におきまして、木質、木のおもちゃに触れられるようなもの、そういったものを全日用意して考えておるところでございます。また、平日に来て、ほかの、テントとかも静かで何もなかったというような点もありましたけれども、何かしら手を動かし、花とみどりがテーマとなっているようなものを手作りできるようなワークショップができるようなブース、こちらのほうが秋にはなかったものなんですけれども、春にはそういったものを準備してまいりたいと考えております。

また、生田のほうの会場は、会場内をゆっくり巡ってもらいたいということもございまして、また、ボタニカルアートのワークショップなどは平日も開いていく予定でございますので、

そういったところで秋よりもしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

【福岡幹事長】

ありがとうございます。それでは、渡辺委員、お願いします。

【渡辺幹事】

では、ちょっと白板があるので、白板も使っていいですか。

まずは、これだけの説明資料を作って頂き、大変だったと思います。

また、先日のヒアリング、ありがとうございます。その際私から申し上げたのですが、そもそも都市緑化フェアをやる、川崎に対してレガシーを残すという、その基本路線はもう一度きちんと踏襲してください。今日頂いた資料の中にはそれが入っていたと思いますが。

それから、3会場の特性ですが、全体にかかる多様性ってちょっとやっぱり概念的な言葉なので、一般の方にはなかなか分かりにくく、どうやってそれをリアルに落とし込めるかも重要かと。そもそも持っているそれぞれの公園の特性とテーマもありますので、そこにフェアを開催することにより、来場者にわかりやすく、見えるような形にしていだければいいと思います。

そんな中、ちょっと物事を動かすときに、大学の学生にも教えていますが、電通の時代からよく実践していた、皆さんご存知の5W1H。私の場合は6W2Hなんです。

これ、お分かりになりますかね。WとHに1個ずつプラスされている。これ、全部頭文字ですけれども、誰が、Who、それは主体者。今度はタイミングだからWhenという、いつ、そして、場所のWhereですね、まさに川崎市の緑化フェアの場所、それから、何をという、いろいろなものを打ち出すものがWhatです。

そして、5Wの中にも入っていますが、特に重要なのは学生にも強調していますWhyです。なぜそれをやるのか、なぜこれを作ったの、なぜというのがちゃんと来場者含め実行する人に訴求されていないとつらいところで、その意味、なぜ都市緑化フェアをやるのか？なぜこの会場でやるのか？なぜこれが出来ているのか？それがしっかり実感できるように、Whyというのを突き詰めて欲しいのです。それを重視せず、すぐHow toに行く傾向は、問題で、手段先行型になる。特に芸術大学の学生は、How toが大好き。いきなりビジュアル化とか。作品とか、制作になる。なので、これ何のために？と何度もしつこく聞きます。絵がうまいとか上手というのはもちろんいいのですが、大事なものは、そこに至る背景、課題と理由です。

今回、緑化フェアにおいても同じように、皆さんに実行していただきたい。

それともう一つ大事なのがWhomです。ターゲット。主に行政をやる方って、広くあまねく皆さん市民全員を大事にと教えられていると思うのですが、やっぱりその中に属性があると思うのです。例えば、若いターゲット、シニア層のオールドの方などに伝えたい目的があるはず。ところが、ターゲットが広く、万人に来てくださいますとなると、本当にジェネラルなフェアになってしまう。そこをもう少し、ターゲットを絞り、いい意味でとんがらせていいと思います。ともすれば、行政の方はとんがらすことを嫌がる傾向がありますね。そんなことやらなくていいみたいに。

しかし、Whomは、すごい重要。その上でHow toをどのように作り上げていくか。

それと、レガシーにもつながるのですが、How much。得てして、予算のことを指す。いわゆるコストですね。どれだけのコストをかけてやるかということですが、そのHow muchだけじゃなくて、もうひとつ大事なものは、効果です。どれだけの効果があるのか。経済的波及効果、社会的波及効果、心理的波及効果等ありますが、この辺がやっぱり全部相まってHow muchだと思います。そして、How muchの先にレガシーがあります。以上を踏まえ、要するに、この6W2Hの法則をもう1回当てはめてみて、やっぱりちょっと不十分だったとか、ちょっとここは何か曖昧だなというなら、そこを補っていただきたいというのが、今日一番言いたかったことです。

それと、先程申し上げたターゲットがありました。基本、フェアの内容を主催者が提供するというのはそのとおりで、参加者が何をやりたいのか？をしっかりと取り入れてくれることは、すごくいいと思います。それから、市民の方のニーズも一過性じゃなくて、次のネクストにつながる。そうなると、レガシーになりますよね。今から、そのような機運づくりのプログラムをしっかりと盛り込んでいただければいいのかなと。

それから、僕はレガシーの中ではやっぱり何を残すかといった中では、やっぱり一つはハード面があると思います。ハードインフラがこれからの形となるということ。それと、言うところのソフトインフラ。コンテンツ、サービスを含め、それも残すこと。

それと、何か川崎なりのレガシーに向けての具体的な共創システムの実現。

それと、ものすごく大事なものは、皆さんが御発言なさっていたと思いますが、コネクションだと思います。日本語でいうとつながりですね。だから、これが相まって、川崎の未来へのレガシーになる。それをもう1回検証してもらって、何を残していくのかという筋道を立てて形にして欲しい。ともかく、最後はやっぱり人のつながりというのが一番ですね。それがまちづくりの主体者になっていく。行政の役割もすごく大きいけれども、こういう方々の力で躍動していくまち川崎として、この仕組みをぜひ実現していただければと思います。

それから、最後、ちょっと質問ですが、特に外国人の方、生田会場は多かったです。歴史・文化、特に、古民家とかあるからだと思いますが、ターゲットとして、より外国人に対する取組を、生田だけじゃなくて、他の会場にも取り組むのか？をお聞きしたい点、それから、川崎市民160万含めて呼び出すのはいいんだけど、やっぱり次、2027年に横浜国際園芸博がありますよね。だから、前哨戦としても横浜の方にも来てもらって、その辺の比率をもう少し上げてほしいなと思います。園芸に興味があるという人は来るけれども、少なからず横浜とか近隣に対する辺りの集客をどう考えているのかを教えてください。

よろしく願いいたします。

【福岡幹事長】

渡辺委員、ありがとうございます。それでは、川崎市さん、お願いします。

【事務局（岸課長）】

すみません、いろいろありがとうございます。まずターゲットのところと、この6W2

Hのところを合わせてなんですけれども、ターゲットにつきましては、前半で少し来場者数の話をさせていただいたときに、人数の想定来場者数という話と、これはいろいろ議会の中でも目標の数字についてという考え方をいろいろされたときにも、我々の中でもちょっといろいろな議論があったところなんですけれども、いろいろな会場でどういった方に来ていただきたいかということ、どの人数を来ていただくとかいうところに関して、特に生田の取組をつくるときに悩んだんですけれども、1日のいわゆる一過性のイベントを多く設定して、その1日当たり例えば10万人来ていただいた、20万人来ていただいたというところをもって緑化フェアの成功というところをするには、なかなか生田緑地というのを、場所も含めてなんですけれども、今後の生田緑地を考えた中でもそういったところじゃないんじゃないかなと思っています。

なので、特に生田緑地に関しては、もしかしたらあまり集客につながるようなものじゃないというところも含めて、いわゆる何十人単位のワークショップとかそういったものを多く今回も入れていますし、考え方としては、その会場に応じてなんですけれども、あくまでも単に集客だけをとというようなところは考えていないということ、先ほど言った、なるべく市民にといいたところと、先生のおっしゃる、横浜も含めて、全国都市緑化フェアですので皆様に知っていただきたいということも少しバランスというものになるかと思うんですけれども、そういったところは考えていかなきゃいけないかなと。

ですので、等々力と生田で大きく変えているところは、いわゆるイベントを等々力のほうに持ってくるというようなところとか、生田については、場所に、この後もやっぱり生田緑地でいろいろな部分で活動されている方の課題がありますので、そこに1人でも多くの方に入っていただきたいというふうなところも含めて、ちょっとそういった意見があることだったり、ターゲットを分けているというところがございます。

また、先ほどの中の考え方の中で効果といったところがございますけれども、それについては緑化フェア全般として、いわゆる経済波及効果とかそういったものも今後出していく形になるかと思いますが、一定水準は、簡単に言うと多分出てしまうのかなと思っていますので、それ以外のいわゆる、多分これ、一番初めに話もさせていただいたんですけれども、定量的な数字というよりは、先ほど言った定性的な評価とか、そういったところがやっぱり重要になってくるかなと思います。

また、お話しされていた、いわゆるつながりの部分でございますけれども、先ほどのウェルビーイングの考え方の一つ、ちょっとこれはこの間お話をいろいろな有識者の方からいただいた中の一つで、ウェルビーイングの中で、心と体の健康というのに併せて社会のつながりということも大事な要素だよというような話もお聞きしています。やはり今回緑化フェアの中で、みんながつながるといふところ、みどりでつながるといふのを一つのテーマにしています。そういったものも含めて、このつながりというものを次にどう生かしていくのかなというふうなところはテーマの一つかなと思っています。

レガシーのほうなんですけれども、今の段階でなかなかこういったハードとソフト、それから、仕組みの話に関してこの場で言えるところがなかなか少ないんですけれども、考え方の一つとしては、まずソフトとしては、大きく掲げている協働の取組ということ、仕組みについても、ソフト的な取組の中で協働の仕組みづくりのようところがセットかなと思っています。ハードについては、当然として緑を増やしていくということについ

でも、いろいろな形の中でハード整備をやっていかなきゃいけないかなと思っています。それは緑化フェアがかなりいいきっかけになるんじゃないかなと思っていますので、何らかのハード整備についても今後話を進めていただきたいなと思いますけれども、この場で、こういった整備をしますとかというところまでは、すみません、触れられないのかなと思っていますが、いずれにしても、みどりの総量とか、いわゆる緑被率というよりは緑視率といったところも含めてちょっと考えていきたいなと思っています。

あとは、横浜のとかにつきましても、先ほど言った来場者数の関係も含めて、やはり他都県さんからも来場というのは1つのキーになりますし、外国人観光客につきましても、日本中どこもやはり観光者がかなり増えている中で、そこまで今回、緑化フェアを見させていただいた中では、川崎に来場する観光客の方は増えているんですけども、そこまで外国人の方が会場に来られているということはなかったのかなと思っていますので、それも併せて、今後考えていかなきゃいけない一つとして、ガイドツアーとかいろいろなパンフレットも含めて考えていきたいなと思っています。何か補足があれば。

【事務局（矢口課長）】

外国人の、私、生田会場のほうにおりましたけれども、やはり民家園を目的に皆様いらっしゃってまして、民家園のほうにはボランティアさんも連動している形は取れていたんですが、そこから、緑化フェアをやっていて、この先こんな霧のこんな姿があるよと、なかなかそこまで御案内をすることが難しかったところがあるかなと思っています。その辺りを、今度の御案内のときには、うまく緑化フェアのこととかもお伝えができるように、外国語が堪能な方がいらっしゃるときは、そちらのほうに御紹介とか御誘導ができるようにしていくことは考えていきたいと思っています。

【渡辺幹事】

生田会場は、展望の上のほうまで外国の方、上っていました、ご家族で。あそのロケーション凄くいいじゃないですか。それだけではなく、もう少し会場における接点を100%じゃないにしても、考えて頂きたいと。また、最終的に、川崎市民にアンケートを取るのですか？先程、心理的な波及効果と申し上げましたが、やっぱり川崎を好きになったとか、みどりに対する意識が高まったとか、全員じゃないけれども、ランダムに、アンケートを取るつもりはあるんでしょうか？

【事務局（岸課長）】

緑化フェアの指標の中にも、市民アンケートというのがございますので、その中に、みどりのアンケートですけれども、そういった形の中では取っていく形かと思います。抽出にはなるかと思うので、恐らく3,000人とかそういった母数になるかと思います。よろしくお願いします。

【福岡幹事長】

渡辺委員、ありがとうございました。

それでは引き続き、御意見をいただければと思います。どなたからでも構いませんので、

挙手のほうお願いいたします。では、米川委員、お願いします。

【米川幹事】

すみません、安全協会、米川です。よろしくお願いします。

渡辺幹事から総論的なすばらしい意見が出たところで、私のほうでちょっと各論的に話しさせていただきたいと思っています。この間の振り返りのときもちょっとお話をさせていただいたんですけども、来場者数が全体で94万人で、生田が17万人ということで、17万人というのはちょっと少なかつたかなという気がしております。というのは、実は私も生田緑地が大好きで、よく行くところですし、この3つの会場の中で富士見と等々力はどちらかという人工的なみどりの形だと思うんですけども、生田は自然のみどりが豊富で、これをもうちょっとうまく生かせたらなという気もしておりました。

あとは、先ほど川崎市さんの説明で、生田に関していいますと、駅からのグリスロをやめて、場内の循環というふうに切り替える。グリスロの利用率が非常に少なかった、天候もあったと思うんですけども、少なかったのも、その切替えは非常にいいのかなというふうに感じました。

それとあと、熱気球体験というのを今度新しく春に取り入れるというお話がありましたけれども、上空から見るとまたさらに自然のよさというのが分かるので、非常にいいと思うんですけども、熱気球といってもそんなに大規模なものじゃないので、1回に数人程度だと思っすね。これはまた多分人気のイベントになれば、順番待ちでなかなか多くの人には体験していただけないというふうに感じました。

そこで、グリスロを、場内の循環、会場内の循環をするのであれば、私もみどりが非常に大好きで、例えばドライブにしても、みどりの中を走ると、街中のごみごみしたところを走るとでは全く、癒しというか、気分が全然違うと思っすね。そういうことを考えて、場内の循環経路なんかも、例えばみどりの豊富なところを選んで、ちょっと遠回りになっても循環する経路を設定していただいたり、あるいは経路の左右とか周辺に何か作品でもあればそういったものを展示してもらって、ただ移動だけじゃなくて、移動しながらそういったみどりに触れられる、癒しを、楽しさを感じるとか、そういったふうな使い方をすれば、グリスロは電気自動車なので別に排気ガスが出るわけじゃないし、環境にもいいということで、そういった使い方をされたらいかがかなというふうに思っています。そういった乗り物体験というのは、多分お子さんも乗り物は好きだと思っすね。先ほど深町幹事さんが言っていましたけれども、高齢者が多い地区ですから、お孫さんと一緒に何かこういう体験ができるとか、そういったイベントもちょっと取り入れれば、さらにもっとよくなるかなというふうに思っています。

ちょっと各論的に、ほかの富士見も等々力もちょっといろいろ言いたいことはあるんですけども、時間の都合で生田にちょっと各論的に特化してお話をさせていただきました。

以上です。

【福岡幹事長】

米川委員、ありがとうございました。では、川崎市さん、お願いします。

【事務局（矢口課長）】

幹事、ありがとうございます。私のほうから、熱気球体験のことを少し補足させていただきたいと思います。今回この熱気球のほうなんですけど、現在いろいろと関係者と打合せをしております。なかなかバルーン大会みたいな、ああいう上空に打ち上げるということではできないところがあるんですけども、地上のほうに係留をしながら、数十メートルちょっと上がるというような体験ができそうだとということで、今考えておりますのは、中央地区のほうではちょっと難しいということがありますので、ばら苑地区のほう、そちらのほうでこの体験ができないかということで計画をしているものでございます。

どうしてもやはり定員がございまして、風が強くと難しいということもございまして、事前の申込み制というような形で開催をさせていただくことになろうかと思っております。ですが、この新しい、川崎市内でこういった体験というのは今までしたことがないのではないかと思いますので、これを一つ、しっかりと、みどりを感じてもらおうということでこの取組を進めてまいりたいと考えております。

【事務局（藤井課長）】

続けて、会場設営担当の藤井と申します。よろしく申し上げます。

生田の交通についてなんですけれども、3会場ともそれぞれ歩くにはちょっと微妙な距離というか、基本は歩いて楽しんでいただきたいというところもあるんですけども、やっぱり公共交通機関での移動ということも進めていく中で、富士見と等々力は路線バスが充実しているのでバス路線を案内してはいますが、生田については路線バスの本数がそもそも1時間に1本とかあるかないかみたいな時間もあつたりしております。そういう中で、秋はシャトルバスとグリーンスローモビリティと、あと、実はここに書いていないですけども、タクシー業界さんにもちょっとタクシーを増やせないかみたいなお願いもしていたところです。

ただ、やはり向ヶ丘遊園の駅前の案内所でも、ちょっと案内が煩雑になったりとかしていた部分もあって、少しそこを春は修正というところも含めて、まず駅から生田緑地の東口のほうにはシャトルバス、これを出していくと。秋の時点ではばら苑もあつたので、ばら苑と生田緑地の間のシャトルバスみたいなものもあつたんですけども、そこは今回ないので、まずしっかりと駅と生田緑地の往復シャトルバスを出すということに切り替えています。

グリーンスローモビリティは、やはりどちらかというと移動手段というよりは少しアトラクション的な要素が強い部分がありますので、今、委員がおっしゃったように、中の少し観光資源的な扱いに切り替えて、生田緑地の中、ちょっと上のほうまで行ったりとか、そういう使い方では春はやっていきたい。そちら側によりシフトしていくというような考え方で整理させていただいておりますので、今いただいたような意見も踏まえて、少し広報とかを整理していきたいと考えております。以上です。

【福岡幹事長】

どうぞ、大西委員。

【大西幹事】

すみません、続きまして、かわさきFMの大西と申します。皆様、ここまで本当にお疲れさまでございました。春開催、非常に楽しみです。まだまだ大きなイベントも待っていますので、ぜひ一緒に頑張らせてください。よろしく申し上げます。

私は、広報の観点で発言させていただきます。時間も少なくなっていますので1点だけ。資料の21ページ、秋開催の振り返りが資料の中でもありましたが、平日集客の課題、それから、緑の行動変容を起こしていく部分が課題と認識しています。それについて、やはりある程度広報もPDCAを回して、秋から春開催は期間はそんなに空いていないんですが、どう改善していくのかということをお示しいただきたいなと思っております。広報の部分での課題感をどのように御認識をされていらっしゃるって、春に向けてどういうふうに改善するかというところを教えてくださいたいと思っています。

春に関しては35、36ページのところで記載がありましたが、手持ちのパンフレットを作るという部分は記載をいただいています、それ以外のところに関して、課題感と照らし合わせたところの御回答をお願いいたします。

【福岡幹事長】

それでは、川崎市さん、お願いします。

【事務局（岸課長）】

特に平日の集客につきまして回答させていただければと思います。秋開催を振り返ったときに、集客の来場者数も含めてなんですけれども、特に前半戦でどういった方に来ていただけていたのかというのを、会場、私、富士見公園会場ですけれども、それぞれの会場に課長級がいましたので、皆様よりお聞きしている中では、最初に課題として考えていた、いわゆる関心のない層だったり、若年層だったり、そういったところに事前の広報としては少し力を入れていたところなんですけれども、どちらかというと、いわゆる緑化フェアのメインターゲットと言うべき高齢者の特に女性の方だったり、地域の方だったりといった方がなかなか最初足を運んでいただけなかった。天候もあまりよくなかったというところもあるんですけれども、そういったところが一番課題だったのかなと思っております。

ですので、メディアのアプローチもなんですけれども、平日の集客というところも含めて、いわゆる平日に緑化フェアに来ていただける、本当にお花とかみどりが大好きな方だったり、いわゆる他都県さんからの視察の方だったりというようなところも含めてだったり、地域の子供たちとか、そういった方にどういった形でアプローチできるかなといったところは、会場の運営の中でも考えさせていただいたところです。特にやはりSNSとか、いわゆるホームページといったメディア以外に、どちらかというとテレビとか新聞とかラジオだったり、あるいはチラシだったり、そういった旧の、少し昔からあるような広報媒体のほうがそういった方には広く届くんじゃないかといったところだったり、あるいは配る場所についても、駅前というようなところよりは、店舗だったり、病院だったり、あるいはそういったところの、本当に身近なところに少しアプローチする必要があるんじゃないかなと思っております。

今回一つ、事例として資料、なかなか広報のページの表現をつけることができないので、

全戸配布というようなところを一つ挙げておりますけれども、こういった、いわゆる手に取っていただけるように、いろいろなチラシとかそういったもの、あるいはポスターとかそういったものについても、店舗さんに会場周辺のところについては今後多く配布させていただくとか、そういったいわゆる主要メディアのほうにターゲットを、緑化フェアに関心のある方に向けても少し手厚くやっていくようなことを1点改善点として考えているところでございます。以上でございます。

【福岡幹事長】

ありがとうございました。それでは続いて、今井委員、お願いします。

【今井幹事】

今井です。よろしく申し上げます。今の話とちょっとダブるんですけども、秋開催のときに会期中、花の維持管理とか、自分のところで出展した出展花壇の維持とかで会場に富士見とか生田の場合とかいたんですけれども、よく利用者の方から声をかけられて、大体いい印象、「きれいですね」とか「こういうのいいですね」と言われるんですけども、「これずっとあるの?」とか「何でこれやっているの?」みたいな、ほぼほぼそういう意見だったんですね。先ほど深町幹事がおっしゃっていましたが、3会場全てもともとある公園・緑地で、土日になれば人は来る会場なので、来てみて初めて緑化フェアをやっているの知りましたという方が割と多かったのではないかと思います。

またこれは違う知り合いから言われたのが、秋が終わって、「大変だったでしょう。よかったね。ほっとしたでしょう」「いやいや、まだ春あるんです」。それも知らない方が多い。なので、事前周知というか、駅とか区役所とか会場周辺に行けば、ポスターなり宣伝もしてあると思います。

あと、SNSは、お年寄りの方はあまりやらない。御年輩の方はやる方が少ないので、ほかの、例えば今、先ほどお話がありましたけれども、古いやり方ですけども、例えば回覧板とか、そういうのが割と皆さん、手に取って見ていただけるのかなど。秋開催のときも、私、自治会で役員やっているので、あれの小さいやつ、あれを回覧板で2回ほど回したことがありました。そうしないと、広報かわさきというのは回ってくるんですが、それはいろいろな記事があって、その中の一部で緑化フェアのPRがありましたけれども、緑化フェア単体のチラシを、駅周辺、会場周辺に行かなくても、あんまり外に出ないような方でも知っていただけるような形でPRを事前周知していただければと思います。

【福岡幹事長】

ありがとうございます。それでは、川崎市さん、お願いします。

【事務局（岸課長）】

まさにおっしゃるとおりかなと思っております。我々もやはりその部分が少し秋も含めて欠けていたのかなと思っております。いろいろなところで広報させていただいていたのかなと思ってしまして、おっしゃるとおり、駅に、川崎駅に行くと、緑化フェアの色でシティドレッシングをしていましたのでというようなところもあって、そういった方が来て

いただくときに、知らなかったという話を我々もやはり会場の中で数多くお聞きしているところがございますので、生活圏の中にこういったものがないということなんじゃないかなと考えております。

ですので、先ほどお話しさせていただきましたけれども、どちらかという、ポスターとかもそうですし、あとは、来ていただいた方の口コミとか、そういうのも非常に重要なと考えております。最後にお花を、秋のときにもメインガーデンのお花を配らせていただいたんですけども、これも3日間で5,000株ぐらい配らせていただいたときに、会場で初め事前の整理券をお配りさせていただいたときには、かなり知らない方がいらっしやっただんですけども、終わる頃には「整理券下さい」というような方で、こういった形でお知りになったんですかという話を聞いたところ、タウンニュースには出していたんですけども、それ以外に、やはり近所の方に聞いてとか、そういった方が非常に多かったのかなと思っております。ですので、緑化フェアの来場も、後半になると、そういった来ていただいた方の口コミで、花を見てきれいだったので近所の方で来ていただいたという方が多かったんですけども、その方にもっと初めからアプローチできたのかなというところは非常に今回、春も含めてやっていかなきゃいけない課題だなと思っております。

全戸配布という手法もそうなんですけれども、いろいろな方に、こういった生活圏の方に、特に川崎市民についてなんですけれども、こういった媒体ですと届くのかというところは少し工夫も必要かなと思っております。本当にあまり注目していなかったんですけども、地域の広報紙とかそういったものも含めてだと思えます。また、メインの新聞とかも恐らく載せることによって、それで見ている方が、ターゲット層が恐らく高齢の方とか、少し上の方が多いのかなとは思っているんですけども、そういう方にもしっかり届けるということが、他都市含めて全国紙とかですとそういったターゲットに届くのかなと思ってしますので、そういったものも含めて少し幅広にやっていく必要があるかなと思っております。以上でございます。

【福岡幹事長】

ありがとうございました。

それでは、そのほかの委員の皆様。では、矢澤委員、それから、反町委員、お願いします。

【矢澤幹事】

J Aセレサ川崎の矢澤です。秋開催、お疲れさまでした。また、僕のほうからは、植物調達という係もありますので、その関係も含めてちょっとお話をさせていただきます。

秋開催が終わった後、市内産の花弁、パンジー、ビオラが中心だったんですけども、秋にはタイミングが合わないということもありまして、事前に幹事会等でもお話しさせていただきました内容を反映させていただきました。内容というのが、生育期、種類も載っていましたけれども、この後迎える春開催6万8,000株のうちの大半を占めるパンジー、ビオラ、多くの数を納めていただく手配をいただきまして、ありがとうございます。資料だと2ページ、基本方針でも載っているところで、ウの赤字で、川崎のみどりの新たな価値

というところで、この意味合いというのを川崎市のほうでどのような考えを今お持ちなのかというのを聞きたいと思っています。

この確認したいという理由が、コア会場3つの中で、富士見公園、メインのところ、こちらについては、自然というところのみどりが少ないじゃないですか。川崎市に農地というのはかなりまだ残ってはいるんですけども、年々減っていつている現状がありまして、増えるということはまずないです。川崎のみどりの考え方次第によっては、市内で農業、農地という、本当のみどりを残すためには、やっぱり農地を持っている人たちがこの先も農業をやりたい、この緑を守りたいというふうに思っていたかかないと、あっという間に川崎市からみどりって劇的に減っていつちゃうんですね。なので、そこを川崎市として今後どのような考えを持っていて、施策を講じて川崎のみどりを守っていくのか、広げていくのかというところをちょっとお聞きしたいなと思っています。

あと、フェア終了後に装飾していた花苗をお配りしたじゃないですか。そこに関しても一工夫で、うちのセレサ川崎だと、大型農産物直売所セレサモスが市内に2か所あるんですね。黒川と宮崎台。あと、それ以外にも、個々で市内全域で個人で直売をやっているところも多数あります。そういった直売をやっている、農業、みどりという観点から、そういった情報を周知するというのも、そういった配布するときに情報の一つとしてチラシを何か入れるとか、そういうようにすれば、足を運ぶ。川崎にこれだけみどりがある、守っていただく中で農家さんが頑張っている。そういったところも広く周知できると思いますので、そこら辺も含めてどのように考えているかお聞きしたいと思っています。よろしくお願いたします。

【福岡幹事長】

それでは、川崎市さん、お願いします。

【事務局（岸課長）】

ありがとうございます。2ページですかね、川崎のみどりの新たな価値というところは、大分幅広い言い方にはなっていますが、そうしたみどりの効果とかそういうものをいろいろ持ち帰っていただくみたいな中で、その中の一つとして、今、矢澤委員もおっしゃったような、実は川崎にも花を育てている農家さんがいるんだよとか、やっぱり知らない方も結構いるのかなと思っています。今回、特に春開催のパンジー、ビオラ、会場で使っていきますので、そういうところにしっかり、これは川崎産のパンジーですよとか、そういうところをしっかりと広報させていただいて、川崎にもそういうものがあるんだというのをまず知ってもらうというのが一つ、フェアでは大事かなと。当然その先に、だったら、そういうところに行ってみようとか、そういうことに興味を持っていただくという、その気づきとか、きっかけになる、そういう機会にはしていきたいと思っています。

また、4月13日に終わりますけれども、今、その仕立ては調整していますけれども、最終日か、恐らくその次の日とか、その次の日辺りで花を配っていきたくと思っています。パンジーとかビオラをどうするかというのはまたそこで考えてはいきますけれども、場合によっては、春、そのまま残して、ゴールデンウィークぐらいまでは咲いているのかなと

思いますので、そういう見せ方もあるので、何を配る、何を残すというのは少し整理はしていきたいと思いますが、そういう中で、やっぱりいろいろな配布と併せて、市内の取組みたいなものが紹介できるのであれば、そこは連携させてやらなければならないと思いますので、引き続きよろしくをお願いします。

【矢澤幹事】

ありがとうございます。せっかくなのでこういった席でもあるので、以前もたしかお伝えしたんですけども、先ほど栗原幹事もおっしゃっていましたが、フェアが終わってから動くとなるとやっぱり難しいところがあるので、この場をお借りして再度お伝えするんですけども、やはり今から市の教育委員会さんとかと、なかなか一民間企業からそういったところにアプローチをかけても難しい現実があるので、同じ川崎市という中でそういった学校関係の部署と連携して、市内の小中学校だとか養護学校とか、今回携わっていただいた施設関係者のところと連携して、フェア後もそのごく一部でいいので継続的に地元のお花を植栽する。これ、年2回ぐらいでいいと思うんです、花苗なんてずっともつので。2回ぐらいの頻度で、それをずっと長期的かつ継続的に続けていけるような取組に対してちょっと動き出していきたいなと思っていますので、併せてよろしくお願いたします。

【福岡幹事長】

矢澤委員、ありがとうございました。

それでは、反町委員、お願いします。

【反町幹事】

反町でございます。行催事の担当というところで、まずは資料でいうと25ページから春会期のいろいろな企画が紹介されているわけですが、もう本番まで1か月とちょっとというところで、それぞれの企画はもう固まって、今、準備をしていっているところだと思います。それぞれの企画、本当にたくさんあるわけですが、一つ一つに意味があって、そして、そのイベントを企画した人のいろいろな思いとかもあってというところだと思いますが、春会期をそれぞれの会場それぞれの企画を成功させることというのはもちろん大前提で、それに向けて準備を進めているところですが、同時にさっきから何度も話題にも出ている、開催後のことというところも考えなくちゃいけないなど。

というのは、その企画を実施するのが精いっぱい、もう必死でとにかく成功させようとやって、終わった後に、もっとこうやっておけばよかったとか、先のことを考えて、見据えてという意味で、ならないように、必死でそれぞれの会場、安全な楽しい開催のために手を尽くされると思うんですが、同時にその先のことも考えていきたいなというところで、やはりそのためには、その一つ一つの企画だったりのやり方というのすごく大事だと思っています。

やはり先ほど、本当に渡辺幹事さんからもお話があったとおりの、6W2Hの話もありましたけれども、これ、改めて本当に、関わる主要なメンバー全員でやって臨んでもいいぐらいというか、すごく重要だなと改めて思った次第です。そういうものがあるなしで何

か、言われたことだけやるとか、よく、なぜやるのか、何のためにやるのかというのを理解しないまま作業的に対応するというのもたくさんあると思うので、できるだけそうならないように、関わる皆さんと同じ方向を向いてやるというのがすごく大事ななと思っています。

ただ、秋会期も関わらせていただいた立場としては、それはすごく、今回のメンバー、それはいろいろな関わる大勢のスタッフの皆さんとか、もちろん市の職員の方と同じ方向を向いて、それぞれ自身が楽しみながらやるということもできていたと私は思っているので、これをさらに春にパワーアップさせていくことで、きっと秋のよかった点はそのままに、それ以上にやって、反省は生かしてという、この2会期制で本当によかったなと私も思っています。ですから、春の後は今ありませんから、これが1年に1回やって来るイベントだったら「来年は」なんて言えるんですけども、それはないわけですから、そういう意識をすごく持って、私自身もそういう目線でもって成功に向けて頑張らせていただきたいと思います。

とにかく今後、春フェアが終わった後もきちんとレガシーとしてやっていけるようなその状況をつくるためには、これはちょっと広報寄りの話になるんですけども、とにかく本当に巻き込まないといけないですね。私は商店街の代表としても来ているわけですから、改めてちょっと、商店街って川崎にとっても、川崎以外でもそうなんでしょうけれども、本当にある意味唯一無二の存在というか、代わるものとか組織とか場所ってなかなかないと思っていて、ある意味、本当に地域に根差した、地域に寄り添った場所・団体でもあると思っているので、ですから、春会期が終わっちゃったら、もう緑化フェアとしてはないわけですから、やはりリアルタイムで実際に関わった、参加したという状況というのは今このタイミングしかないわけなので、終わってから関わらなかった人が学ぶことというのは、あ、こんなイベントあったんだというのは、それはいつでも誰でもできると思っているので、やっぱり実際にリアルタイムに関わったとあって、その意識をその先のレガシーというか、プチ緑化フェアみたいな話もありましたけれども、本当にそういったものを自発的に自律的に実施していくためには、そこを今気を抜かずにやっていかなきゃいけないところで、私も手を尽くさせていただいて頑張りたいと思います。以上です。

【福岡幹事長】

ありがとうございました。それでは、川崎市さん、お願いします。

【事務局（岸課長）】

ありがとうございます。まずイベント、展示も含めてなんですけれども、今回緑化フェアをやるに当たってなんですけど、やはりこれ、多くの方に、つくるところからだと思うんですけども、参加していただいているところが、少しメインの取組になっております。そこは秋も春も変わらず、いろいろな方に関わってもらってつくっていくところを一番大事にしている関係で、ややもすると、お金をかけたほうがもうちょっとこういったイベントができたんじゃないかとかというところもあるのかもしれないんですけども、基本的には皆さんでつくっていただく、我々がつくっていくというところにやっぱり価値があると思いますし、関わっていただいた人が、継続的な取組として続いていくことが川

崎市にとっても財産になるんじゃないかなと思っておりますので、そこはぶれずに、春もいろいろな企画を皆さんに楽しくつくっていただくところからやっていくところに重点を持っていきたいなと思っております。

今後の話というところについては、やはりこういったイベントをやるときに、一過性に終わらないというところを常々一番最初から言っている中で、先ほどのいろいろな方のお話もそうなんですけれども、日常これに戻ってしまうところをどう継続していくのかと。要は、いろいろな取組をまちの中の取組に波及させていただくのかといったところかなと思っています。

特にイベントについては、1点あるとすると、等々力緑地という場所を少し今回ターゲットに置いているのは、等々力緑地が持つ特性として、今後も空いたところに週末、いろいろな場面で集まっていたくときに、小杉というまち自体が持っているあのまちのポテンシャルとして、こういったイベントの受皿になるんじゃないかなと思っていますし、地域の方に、やらせていただいたイベントがいろいろな形で落とし込めていくのであれば、それは継続的な取組につながるんじゃないかなと思っています。

生田緑地についても、ワークショップとかそういった団体さん等の活動がその後も継続して生田緑地に落とし込めていければいいかなと思っておりますので、そういった継続していく取組に今回皆さん関わっていただいた方が引き続き川崎市に関わっていただけるような取組につながるような20日間になるといいかなと思っております。

最後に、未来の話になるんですけども、こういった活動が継続的につながることが、いずれ何年か先にこういったハレの日をまたつくっていくことにも当然つながっていくんじゃないかなと思っておりますので、やらせていただく活動の継続と、それから、何年か後に向けてのハレの日に向けて引き続きこの20日間でできることを皆さんと一緒にやっていきたいなと思います。以上でございます。

【福岡幹事長】

ありがとうございます。それでは、萩原委員、お願いします。

【萩原幹事】

ありがとうございます。幾つかあります。先ほどテーマの話でGreen For All! がなくなっちゃったという話がちょっと出たんですけども、私もそれも感じたんですけども、本物のみどりというのがまたどうなのかなとは思ったんですね。ここに来るときに駅前のバスに乗ろうとしたら、バスの乗り場のところに円いのがあって、そこにかかっているのは、すぐ近くだったので、もういかにもフェイクというのが分かったし、川崎の駅を降りたところのグリーンボールとかフラワーウォールって、あれ、素晴らしいですよ。でも、あれ、高いから分からないんですけども、別に本物というわけではないと思うんです。やはり土とかみどりとかそういうものを上に持ってくることはできないので。だから、ここの、本物のみどりというのがちょっと私は引かかりました。別に皆さんがみどりを楽しむという点では何でもありかなと思ったんですね。もちろん本物のみどりや花だけでは埋め尽くせないような空間を埋めていかなきゃならないわけですから、こういう視覚も含めて盛り上げるのが緑化フェアかなと思っています。

私、全国都市緑化の懇話会のときから絡んでいて、一番今回で大事なのは、川崎市内に
あるみどりやお花に絡むようなネットワークを完全にその後もつながっていくようなネッ
トワークにこれをきっかけにして盛り上げていきたいという、それが100年後の川崎に
もすごい大事だなということに力を入れていたので、この間たまたま中原区役所に行った
ときに、公園緑地協会さんのチラシが置いてあって、そこにみどりのボランティア活動団
体の登録と、それから、そういうのをすごくたくさんやっていますみたいになっていたの
で、何か私、今回のネットワークと絡めてここまでちゃんとしてきたんだ、よかったなど
思ったんですけども、中原はどんな団体か見たら、ほとんど私が知っている団体だった
し、みんなそれでやってくれて、全国都市緑化にもやってくれているんだというふう
に思ったんですけども、もしかしたらこれ違う、今回のネットワークと公園緑地協会
でやっている登録とは違う可能性もあると思ったんです。そうしたら、それってこれ
から後、連携できるのかなと思ったんですね。公園緑地協会に登録しているのはもう
きちんとして団体登録をしていて、今回のネットワークに参加した人たちって、かぶ
っているところはそっちでいいんでしょうけれども、そっちが軸だとしたら、うまく
これつなげていかないと、せっかくすごく増えたので、それはこれから先継続して
ほしいなと思いました。

私、観光のほうから出ているということで言わせていただくと、先ほどの外国人の方
も来てほしいというお話があったので、これはすごくやってほしいなと思っておりま
す。富士見のほうでナイトマーケットをやっていたいただいたのは、私のほうからも
ぜひナイトをやりたいということもあったので、すごくいいことだと思うんですけ
れども、やっぱり広報が遅過ぎると思うんです。私このチラシを見たの、ここで初
めてなんですね。うちのホテルに置いてあるのは、前のデザインで、日にちだけ
が春になっている。だから、2月14日から集中期間ですよというふうになると、
本当にみんなぎりぎりだと思うんです。今までもいつも私、遅いと言っていたと思
うんですけれども、こんなぎりぎりまでため込んでおいて、一生懸命ぎりぎりまで
作ってばっとうるというのだと多分遅い。

今回の幹事会でこの資料もぎりぎりじゃないですか、PDFとか来ているのも。ここ
で見ても、まだ日付が入っていないのが多いですよ。二ヶ領用水の今井上町緑道の
花見の川下りなんか、もう絶対3月の下旬か何かじゃないともう桜がなくなっちゃ
うのに、これも日付が出ていないとか、本当に。前回の秋のときも、私、TARO Day
ですね、Green Dayの夜のランタンですかね、すばらしい、あれ絶対見たかった
なと思うんですけれども、結局、気がつかないということは、多分広報が、あの
ときも言っていたと思うんですけれども、ホームページでもアーカイブばかり出
してあって、これからどこで何日の何時ぐらいにこんな面白いのをやるよとい
うのが、やっぱりちょっとばらばらになっちゃって分らないと思うんですね。あ
あいうのって、物すごくインスタ映えするし、海外の人だって、日本人だって、
全国から見に来るチャンスだと思うんです。

ぜひそういう意味でいえば、今、国際交流協会さんのほうでも英語でのボラン
ティアガイドを育成もしていますし、いろいろなところで日本以外には必ず英語
ができる方がいらっしゃるんで、ガイドでそこはぜひ誘導していただいて、この
全国都市緑化フェアの楽しいところで誘導していただければ、そういう方がまた
SNSにアップしてくださるので、何がきっかけでブレイクするか分からないので。
今回の秋のときに佳子さまがいらして

ただいて、川崎をあちこち見ていただいて、3会場を、もう1回来てくださって等々力も見たということなので、すごい宣伝効果になったと思うんです。全国都市緑化だけじゃなくてドラえものところも行ってくださったりとかして、それが全国ニュースになって非常に、多分海外の方々も結構発信してくださるので、それはいいかなと思います。

飲食の、宿泊、ホテルだったり、レストランだったりの連携というのについても、すごく秋は反響があって、たくさんの方に来ていただいたので、そういう方は別に近所の方が泊っているわけではなくて、皆さん、これのパンフレットを喜んでお持ちになりましたので、ほかの地区からも来ると思いますので、今回も、春でちょっともう混んでいる時期ではあるかもしれないんですけども、連携をしていただきたいと思います。

レストランとしては、川崎育ちを使うのは実際に物すごく難しかったということはピアリングのときもお伝えしたんですけども、やっぱりとれる、とれないが物すごくありまして、今週末では何とかおいしそうなのがとれるんだけど、もう来週になったらへなへなで使えませんみたいなのを、やっぱり印刷物とかにしちゃうわけですから、お店側としてはこれをやりますみたいな、すごく冷や冷やしました。毎週毎週すごい大変なことになったので、多分ほかのレストランも手を出すのが大変なんじゃないかなというふうに思ったのをちょっとお伝えしたいと思います。

飲食・物販係としては、飲食店を出店するハードルが高過ぎるということを最初に私、大分言って、何でこんなに出店料が高いんだとか、それから、こういうふうな日程じゃなきゃ入っちゃ駄目みたいなのがすごく多かったです。それでやっぱり絞り込まれてしまったので、もっと盛り上げるためには、出店料をどうにかしてくださいということでちょっとあれしていただいて。ただ、ふだんからやっている料金とあまり下げられないということもあったので、最初のほう、私は、それじゃしょうがないんですかね、せめてもということ言ったんですけども、もっと日程も選びやすくして、出店は増やしていただいて、その代わりに、食中毒に対する気をつけというのは、今までどおり徹底してくださいと。1件でも食中毒が出たらもうこれは台無しになるのでということで、そこは会期が終わってから5日間ぐらい私はもう冷や冷やしていましたけれども、春も暖かくなりますので、ここは気をつけてほしいなというところがございます。

一応そんな感じですので、ありがとうございます。

【福岡幹事長】

それでは、川崎市さんのほうからお願いします。

【事務局（矢口課長）】

萩原幹事、ありがとうございます。私のほうからは、飲食・物販の関係と、あと、外国人観光客のお話とかをちょっとさせていただければ。

最初に、花とみどりのネットワークの話をいただきました。今回、様々な花とみどりに関わるワークショップ、私できますとか、あるいはここで花屋さんで出店できますとか、そういった方々とながれたというのはとても大きなことだと思っております。こういったことをしっかりとこちらのほうでも記録、いろいろ整理をいたしまして、今後、我々、

行政発だけではなくて、先ほど少し御紹介いたしましたようなみどりの共創プロジェクトということで、民間発のみどりのイベントをどんどんやっていこうという方々もいらっしゃると思いますので、そういったところの方々ともうまく連携いたしまして、相乗効果でみどりで盛り上げてまちを盛り上げていきたいと思っておりますので、しっかりとそういうネットワークを大事にしていきたいと思っております。

あと、Green TARO Night、事前の広報が行き届かずというところ、幹事の皆様にもお伝えがなかなかできなかったところをちょっと反省しております。具体的には、もう本当に会期が始まりましてから生田会場でチラシを頑張って配布いたしまして、結果2,000人ぐらいの方が一晩にいらっしやったということで、初めて見る光景でございました。今回これを誘致に当たりまして、動画などもちょっと作ったところもございましたが、なかなかそれを事前に広報することがうまくできなかったところがございましたので、今回はそういった作ったものを有効活用し、なおかつ早め早めにそういった目玉のものは今後上げていきたいと思っております。

また、飲食・物販のほうはいろいろと幹事からの御意見もいただきまして、ハードルを下げる方向でいろいろ改善いたしました。今回は平日もやはり出店ゼロというのは寂しいというところもございましたので、生田会場のほうとか、平日は1店舗は必ず出ているようにということで、秋よりはそういったところの出店が増えて、平日と休日との差を少なくするような、そういったことに取り組ませていただいております。食中毒等への対応も、暖かくなるということで、私たちもまた気を引き締めて、これから出店者説明会をいたしますので、しっかりとその辺、約束事を伝えてまいりたいと思っております。

【事務局（岸課長）】

併せて、広報の関係でございますけれども、2月14日からの広報集中期間、少し遅いのではというようなお話でございましたかなと思っております。こちらについては、年間の計画の中でこの日付を設定して、1年を通して、川崎市としては緑化フェアと100周年の記念事業全体をどうやった形で駅の中で推していくかというところからこの日付を設定していたところではございますけれども、いろいろな中でもう少し早めの方向というところもお話があるかと思っております。

分かりやすさという点で、少し今のホームページで最新の情報がなかなか見にくいとか、そういったお話もお伺いしておりますので、随時でございますけれども、ホームページのほうも少し更新をかけておりますし、今日2月5日でございますので、出来たポスター等につきましては、もう既に事前に配布をどんどんさせていただいているところでございます。引き続きにはなりますけれども、会期は3月22日からというところでございますので、そこに向けてなるべく早めの広報を少しやっていきたいなと思っております。

以上でございます。

【福岡幹事長】

ありがとうございます。これで一通り幹事の皆様から御意見いただいた形になりますけれども、最後、私からも簡単に3点申し上げたいと思っております。

ページ2と3に関して、Green For All! の話ですけれども、多分こ

のコンセプトにもう1回立ち返ると、一番大事なのは、いろいろなものが「みどり」と交差すること、掛け合わせるということがこのコンセプトだと思います。私も秋にGreen and Sports for Allという造園学会のシンポジウムを川崎市役所で実施させていただきました。フロンターレさんなどにもご登壇いただき、みどり系の人たちとスポーツ系の人たちが一堂に会するという意義深いシンポジウムになりまして、ふだんは遠い二つの領域が重なり、良い会だったかなと思います。

ですので、渡辺委員のWhyということに立ち返りますと、川崎市で出せる独自性の一番大事なところ、このGreen For All! というコンセプト、全ての人のためのみどりということをおぼわすてははいけないと思います。まだリーチできていない方たちもたくさんおられると思いますので、アートでもいいですし、文化でもいいですし、それから、スポーツでもいいですけども、個別の事業だけでなく、時折俯瞰して全体のコンセプトの中でも見ていくということが大事だと思います。あとは、企業や教育機関、リーチできていないところはどんなのかを意識しつつ、交差させることによる効果を大事にしていきたいなと思います。上位のColors, Future! Actionの中にも書かれていますね。

2つ目は、主体形成に関して。栗原委員とか渡辺委員から、たくさん御意見がありましたけれども、外からどれぐらい来ていただくかという話だけでなく、関わっていただいている方たち同士のつながりとか、あと、既存の団体と、それから、新しく今回生まれてきたネットワークとか、これからプラットフォームになり得るような「みどり」を介したつながりの現在位置が気になりました。みなさんの取り組みは個別に進行しており、もう少しみどりを介した人々の関係性を強くするようなことを考えても良いと思います。

例えば、最近緑化フェアを開催した北海道の恵庭市では、コンパクトな良さを活かしていたようです。緑化フェアを支える市民たちが全員LINEグループでつながっていて、今日ここで花の手入れをするよと言うと、200人ぐらいばつと集まるような。こうしたみどりの関係主体のレガシーが緑化フェアで育ったようです。川崎の場合は関わっている主体が非常に多いので、関係者をどのようにプラットフォーム化したりとか、それからHow muchでいうと、どれぐらいの団体が生まれるかとか、どれぐらいの共創が生まれるかということをお少し目標値として設定をすることも重要なのではないのでしょうか。既存の組織のつながりに加えて、新しく生まれた人たちのつながりを可視化して、川崎市が媒介になって間をつなぎながら、このようなみどりを介した主体形成を大切にしてほしいと思います。

また、アンケートを平たく川崎市民から取るのもいいと思うんですけども、繰り返しみどりに関わると、愛情が生まれたりとか、つながりが深まったりします。うちの大学キャンパス内で畑をやっているんですけども、連続9回ぐらい関わると、話の内容がぐつとプライベートな話になり、初回は畑の話や授業の話だったのに、回を重ねると恋愛の話や悩み相談などに会話の中身が変化することが、今年度の卒業研究で明らかになりました。関係主体のネットワークの次には、その関係性の深度というのかな、関わっている人たちのつながりの深度みたいなことも別に測れると面白いのかなと思います。それが2つ目です。

3つ目は、レガシーに関してです。仙台市野緑化フェアでは、開催後の会場の再整備・

修復にレガシー予算が活用されていました。例えば今日お話があった、みどりでつなげる、暮らしやすく住み続けたいまちという概念を総合計画に位置づけるとか、あとは、町なかのみどりですかね、今回アプローチのところではいろいろな工夫はされているんですけども、今後そういったものをまちや暮らしのアクションにつなげていくためには、まちのなかでの小さいみどり創出した主体に向けた助成事業みたいなものが必要なのではないのでしょうか。

普通は緑化事業や花作りの事業への助成はたくさんありますが、「みどり」と何かと掛け合わせたような、まちとか、それから、地域のみどりのGreen For All! の取組を助成していくときに、主体と場所（空間整備）がセットになっていないと助成しないというような視点も重要かと思います。ただのハード空間の整備に助成をするのではなく、主体と場所がセットになったプロジェクトに助成をするような、レガシー事業をこの緑化フェアの延長線上にあるものとしてしっかり可視化できると良いですね。春開催の緑化フェア前に、きちんとレガシーについて議論していくことが大事だと思いましたので、それが3点目になります。こちらでもできればどれぐらいの量、数をレガシー事業として実現するか示せると良いと思います。

私のほうからは以上になります。もしほかにコメントがあればお願いします。もしなければ、次の議題に進んでいく形でお願いします。川崎市さんからもコメントがあればお願いします。

【事務局（矢口課長）】

お話ありがとうございます。まさに今後関わった人たちがどういうふうに関わりをもっと深めていくのかというのはとても大事な事だと思っております。一つ切り口としては、フェアのボランティアの皆さんですね、集まっていたいて、今は単体にそれぞれがフェアの会場に来ているという関係、あるいはそれぞれが自分たちのフィールドで活動している。これらを横軸をどうやったら刺せていけるか、お互いのところにもっと関わっていくにはどうしたらいいかというのはとてもこちらとしてもこれからの目指すところかなと思っております。

一つ、今回の春の生田会場では、里山の様々な保全活動をしている団体の活動紹介についても工夫をしようと思っております。秋には単体ごとで発表していただいたんですが、それではお互い同士のつながり合いが持てないということで、今回、複数の団体、横軸に並んでいただきまして、また、学校さんのほうからも参加いただいて、それぞれの知見を深めていただく、そういった取組を今回のフェアでやっていこうと思っております。どうやった横軸を刺していけるか、これをちょっと意識して今後進めて考えていきたいと思っております。

【福岡幹事長】

よろしいですかね。あとは、ちょっと答えにくい質問だと思います。後でまたお聞かせください。

ということで、次第2のほう、少し時間が超過してしまいましたけれども、皆様から貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、ここから次の次第3のほうに入ってまいりたいと思います。次第3、実行委員会第6回総会について、事務局より御説明のほうお願い申し上げます。

3. 「実行委員会第6回総会の議案について」（資料2）

【事務局（岸課長）】

よろしいですか。すみません、それでは、資料2のほうの御説明をさせていただきます。

資料2、ページをおめくりいただきまして、2ページを御覧ください。第6回の実行委員会総会の開催日時でございます。3月24日に、開催場所といたしましては、川崎商工会議所のKCCIホールでございます。内容につきましては、川崎市制100周年記念事業とかわさきフェアの取組状況の御報告、それから、それぞれの令和7年度の事業計画の案と収支予算の案をお諮りする予定でございます。

なお、当日がかわさきフェアの会期中の開催となりますことから、実行委員会委員向けに富士見公園におけるガイドツアーの実施を予定しております。ページの右下にございますチラシを総会の出欠確認の際に配付させていただきまして、御案内させていただきたいと考えております。こちらにつきましては、委員の本人以外であっても参加可能としております。

次に4ページを御覧ください。令和7年度の事業計画の案でございます。大きくは、会議の開催、それから、各事業の計画の実施・調整に関することとしておりまして、協働実施とか、観客誘致・広報宣伝、それから、会場等の考え方についてそれぞれ記載しているところでございます。当実行委員会といたしましては、令和6年度から引き続きフェアの春会期の実施、それから運営を行うとともに、レガシー形成につながるよう取組を進めていくというところでございます。

次に7ページ目を御覧ください。令和7年度の収支予算の案でございます。まず初めに、収入につきましては、川崎市からの負担金2億9,506万7,000円と、現時点の見込みではございますけれども、令和6年度からの繰越金として50万6,000円の合わせて1億9,557万3,000円となっております。支出につきましては、主に事務局の運営経費であります総務費といたしまして531万円、かわさきフェアの実施・運営等に関する事業費として2億9,026万3,000円の合わせて2億9,557万3,000円となっております。また、令和6年度からの繰越予算といたしまして、14億1,271万1,000円を設定する予定でございます。なお、この繰越予算とは、かわさきフェアが年度をまたいで開催するといったこととなりますので、令和6年度中には支出せず、令和7年度中に前述いたしました予算と合わせまして支出する予定であることを御承知おきください。

最後に、8ページ目を御覧ください。令和6年度の決算見込みでございます。なお、1月末時点の見込みということにしておりますので、決算額につきましては来年度の総会における議決事項となります。

説明、雑駁ではございますが、以上でございます。

【福岡幹事長】

御説明ありがとうございました。それでは、幹事の皆様からもし御意見等ございましたら、挙手のほうお願いいたします。よろしいですかね。

それでは続きまして、次第4、市制100周年記念事業の取組状況についてということで、事務局のほうから御説明をお願いします。

4. 市制100周年記念事業の取組状況について【参考資料1】

【事務局（金井課長）】

総務企画部シティブロモーション推進室で100周年を担当しております金井と申します。ちょっと時間が経過した中なんですけれども、100周年記念事業の取組の中でもレガシーについて触れている部分があるので、多少五、六分、七、八分お時間をいただいて御説明させていただければと思います。

初め、参考資料1の2ページをお開きください。100周年記念事業の取組については、先ほどから出ておりますように、多様性を大事にして、そしてつながり合って、「あたらしい川崎」を生み出していく、そういう取組として進めてまいりました。黒丸の3つ目なんですけれども、記念事業も終盤を迎えまして、これまで実施してきた取組を踏まえて、100周年記念事業の終了後の取組の考え方をまとめたColors, Future! Action推進ビジョンを今、骨子素案という形でつくっておりますので、この1年間を振り返りながら御説明させていただければと思います。

この辺りの説明は少し後ほどにしまして、26ページをお開きください。26ページ目が、先ほどか出ておりますみどりの共創プロジェクトということで、みどりに関連がございます市制100周年の実行委員会の主催事業でございます。この取組、9つの企業・団体により自発的にスタートした取組ということで、公園などの場所を決めて、みどりに触れられるグロウガーデンという取組と、あと、イベントに出たり、それから、トラックが移動したりというトラックガーデンという、場所の制限なくみどりに触れる機会を創出するトラックガーデンという取組なんですけれども、ここの辺り、矢口課長とクリバヤシ係長とミヤシタ職員が一生懸命に汗をかきながら地域の団体を支援して、この間、取組を進めてきたものでございます。北は麻生から南は川崎の大師公園まで市内全域で開催していきまして、先ほどの説明でもございましたけれども、緑化フェアの会場でも開催してまいりました。

次のページに行きまして、これ、取組の様子なんですけれども、令和7年度以降も、下にございますように、取組が自走していくような任意団体、midori-baという団体を9つの企業・団体で設立しまして運営体制の構築をして、出会いと交流とか、活動の継続、そういったアフター100周年のレガシーとなるような取組として取組を進めているところでございます。

それから、100周年事業の取組の一つ紹介、終盤を迎えた中なんですけれども、今度の3月29日と30日に100周年の取組を未来へつなぐイベントを開催します。まだ絵が間に合っていないんですけれども、100周年のフィナーレを飾るパレードということで、ここにはドラえもんちゃんをキャラクターとして起用させていただくということと、

あとは、②にございますように、市内企業と連携した未来を体感するブースなどを出展します。会場は等々力緑地の催し物広場でございますので、フェアと連動して開催していくということで、こちらを広報しながらフェアを広報したりということで、広報面での連携とか、あと、当日のイベントと連携というところもしっかりしていきたいなと思っております。

続いて、また資料飛びまして、73ページをお開きいただきください。こちらが100周年のいわゆるレガシー、Colors, Future! Action推進ビジョン(骨子素案)と銘を打って今つくっているところでございます。

次の74ページをお開きいただきまして、2段落目でございますように、このビジョンについては、市制100周年記念終了後も、オール川崎市で取り組んできた取組の成果を踏まえて市制100周年を契機とした新しい川崎を生み出していく取組を着実に継続・発展させていくということを目的に策定しているものでございます。

まず、振り返りということで75ページをお開きいただきまして、実行委員会には397の企業・団体に参画いただきまして、それから、幹事会、共同事務局みたいなところを官民連携で進めて、協賛もいただきながら取組を進めてきたところでございます。

次のページに行きまして、実行委員会主催事業を幾つか紹介させていただきます。左上のColors, Future! Summitには、深町幹事とか大西幹事も昨年度のサミットには御参加いただき、川崎の未来づくりへの参加のきっかけとなるフェス&カンファレンスというものとか、富士見会場に向かう動線、11月3日に市役所前の市役所通りを6車線全て歩行者空間にしてにぎわいを創出した「みんなの川崎祭」。それから、6月29日には等々力野球場を初めてコンサートの形で使い、サッカーのフロンターレの記念試合も一緒にやり、そこにブルーインパルスが花を添える形で大いににぎわった取組でございます。さらに、左下の「ここから未来」プロジェクトということで、ここは反町幹事に大分御協力いただいたんですけども、溝口駅前のキラリデッキにステージを造って、ここでダーツとか音楽の発表をできると、そのステージのところでございます。先ほども申し上げたみどりの共創プロジェクトも、この実行委員会主催事業の一つでございます。

次のページに行きまして、市役所といたしましても、各局区が一步先を目指すプラスアルファのチャレンジを行って、157の事業を展開してきたところでございます。そしてさらに、市民・企業・団体による自主的な参加状況ということで、実行委員会に参画する団体が160件の事業を実施して、ウェブサイトで登録いただいたり、それから、実行委員会に参加していない市民・企業・団体も135件、年間で事業をやっていただき、登録されたということで、まさにオール川崎市で取組を進めてきたというところの成果なのかなと思っております。

さらに、広報の話、先ほどから出ていますけれども、広報のいろいろ数字もまとめております。下のほうでいくと、令和6年度にテレビとか新聞とかウェブに掲載された件数が3,117件、市制100周年関係の記事で掲載されました。ここに、広告換算値8億円ということで、やっぱりこうやっっている事業、キーコンテンツがあって、それをしっかり広報していくことで、市民に100周年のこととかフェアのことを知っていただく機会になったのかなと思っております。

先ほど、アンケートの話が出てきましたけれども、いろいろな事業をやっている中で来

場者にアンケートを取った中では、やっぱり川崎の魅力を知ることができたとか、川崎にまちに関わっていきたい、そういった数値が非常に多かったかなと思っております。

さらに、ちょっと長くなってすみません。シビックプライドということで、都市イメージ調査を毎年やっております。この辺り、左上と右上が川崎に対する愛着とか誇り、この数字が大分上回っています。左下、川崎市のイメージを「よい」と思う人の割合も、今年度大きく上がりました。市長の言葉を借りれば、爆上がりしたという言葉が市長は使っています。今後、100周年記念事業に参加したかどうかみたいなアンケートを同時に取り取っておりますので、そういったところとの相関関係を今、分析をしているところでございます。

こんなことをしてきた100周年事業は、やはり82ページの表題にあるように、令和7年度以降につなげていくということが必要になっているというところでございます。

83ページをお開きください。市制100周年記念事業のレガシーとしては、1つ目として、100周年記念事業を契機として生まれた多彩な事業、2つ目は、自らまちに関わり、まちを盛り上げる市民・企業・団体とのつながり、③として、川崎を知って、関わって、好きになり、向上したシビックプライド、この3つをレガシーといたしまして、様々な人たちが川崎に愛着と誇りを持ち、つながり合いながら未来にチャレンジするまちを目指してまいります。

その具体的な取組は、後ろのほうに資料がございますので、本日は説明を割愛させていただきますが、現在、推進ビジョンの骨子素案を3月の総会で骨子として策定して、それから、夏に実行委員会としては解散を予定しているんですけども、それまでに骨子なので肉をつけて推進ビジョンという形で策定して、今後は、最後にこれ、1つだけ説明させていただければと思うんですけども、87ページに、これをどういう体制で進めていくかというところで、川崎市にはSDGsプラットフォームというものがございますので、そこに参画団体を誘導しながら、さらにこの100周年で生まれた取組を継続・発展させていくチームとして、SDGsプラットフォームの中に仮称Colors, Future! Action推進部会を新設して、100周年記念事業を担当しているシティプロモーション推進室が、来年度も同じプロモーション推進室の中にここを動かしていく部隊を残しますので、100周年で生まれた取組を継続・発展させていくようなところは強い取組としてやっていきたいと思っております。

駆け足での説明で申し訳ございませんでしたが、説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

【福岡幹事長】

御説明ありがとうございました。本件に関してもし御意見等ございましたら、挙手のほうをお願いします。

じゃ、お待ちしている間に私から。例えば86ページに、緑化フェアを契機としたみどりのまちづくりと書いてありまして、その下に、緑化フェアのレガシーは別途取組を進めていますと書いています。この100周年記念事業と緑化フェアのレガシーのシナジーというのはどれくらい意識されているのかというところと、結局それが残らないと、何かColors, Future! Actionの中の一部分にみどりがあって、通常の取組

とあまり変わらなくなっちゃうのかなと思いました。どうにか100周年記念事業とかレガシーの中にもう少し、全体の冠とか、コアのところの概念にもう少しみどりとか緑化フェアの話を入れ込むことはできないでしょうか。みなさんの意識の中では、多分中には入っていると思うんですけども、あまり表に出てこず埋もれてみえます。緑化フェアと100周年記念事業の関係性、位置付けに関する整理が少し分かりにくいかなと。いかがですか。

【事務局（金井課長）】

そうですね、やはり7にも別途、取組を進めているって、完全に孤立しないような形で書いてはいるんですけども、やっぱり事業としては、フェアというのは100周年記念事業の象徴的な取組として実施して、つながりをつくっていくとか、そういった意味では私どもも一緒ですので、今後、フェア室とも相談しながら、100周年のレガシーの計画の中にフェアのレガシーが別途ですというのがいいのかどうかというところを含めて、夏までにつくっていく中でまたフェア室と相談しながら、どういうふうにフェアのことをこの推進ビジョンの中に書いていくのかというところは検討していきたいと思います。

【福岡幹事長】

ありがとうございます。そのほか、委員の皆様からよろしいですか。

それでは、最後ですかね、次第5ですけども、その他について、事務局のほうから何かございますでしょうか。

【事務局（木村次長）】

特にはございません。

【福岡幹事長】

委員の皆さんからもこの場で何か皆様に共有しておきたいことが何かありましたら。よろしいでしょうか。

それでは、ほかに御意見等なければ、ここで進行を事務局のほうにお戻しします。

5. 閉会

【事務局（木村次長）】

長時間にわたり御議論いただき、ありがとうございました。

本日いただきました皆様からの御意見を踏まえながら、整えてまいりたいと思いますし、また、総会のところでは、事務局のほうからまとめて御報告をさせていただきたいと存じます。

また、フェアの春開催本番に向けていよいよ時間が迫ってまいりましたので、さらに一段ステージを上げて、我々も頑張っていきたいと思います。

それでは、以上をもちまして、第8回緑化フェア幹事会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上